

AI時代のエンジニアリング：コードを「書く」から「検証する」時代へ

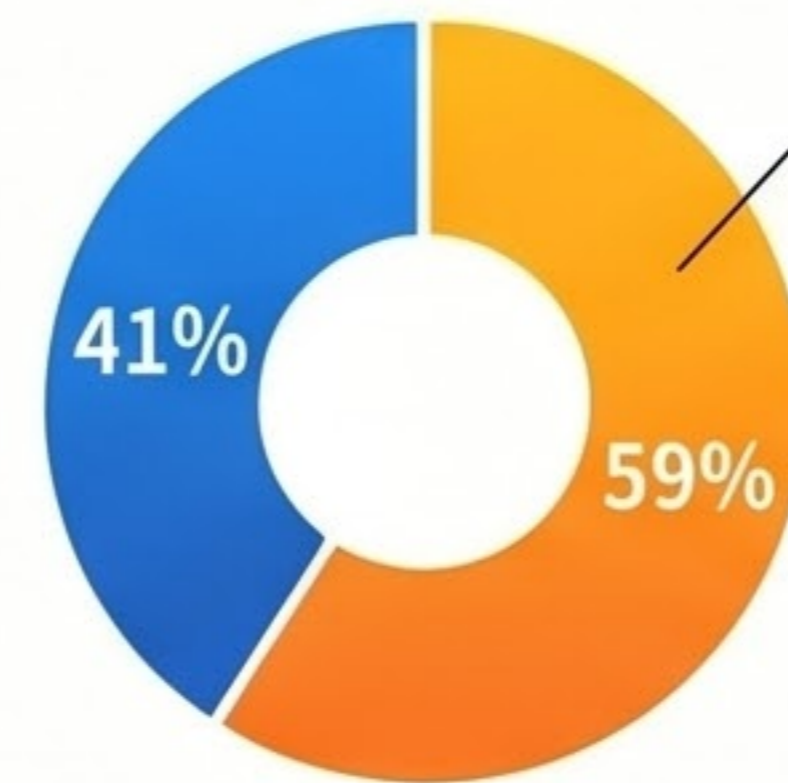
Googleの新規コードの75%がAI生成



2026年4月時点の報告(2024年10月の25%から急増)。すべて「エンジニアによる承認」が前提。

Anthropic社のコードも「過半数」がAI製

完全な「AIへの丸投げ」は



- 多数派 (Majority)
公式には「多数派」と表現。
一部では100%に近いとの報道も。
- 人間との密な連携が実態



完全な「AIへの丸投げ」はまだ0~20%

Anthropic社内調査:社員は59%でAIを使うが、完全委任は限定的。

開発ワークフローの構造的変化

BEFORE:
「コードを書く」



人間に生成したよがコードの
応じているコード」を嗅ぎ分ける、
躰ぎま正した言語力が必須。

AFTER:
「文脈を整える」



要件定義、コードベースの文脈整備、
エージェントの実装計画作成が重要工程。

「人間による検証」が
ボトルネックかつ生命線



型検査、テスト、セキュリティレビュー、
人間による最終承認がマージの必須条件。



価値の源泉が「記述量」から「判断力」へ

仕様作成、制約設計、評価基準の定義、セキュリティ判断など、
上流・下流の管理能力がエンジニアの価値を左右する。



労働市場と生産性への影響

2030年までに7,800万人の雇用が純増

1億7,000万創出

9,200万消失

7,800万純増

WEF予測: ネット・ポジティブな市場

初心者は35%効率化



AIが値上げに
寄与。

熟練者は一時的に停滞



複雑なコードベース
では修正に時間、19%
遅くなるケースも報告。

ソフトウェア開発者は依然として「成長職種」。
業務の中身がAIとの協業を前提としたものにアップデートされる。

ステークホルダー別の推奨アクション



エンジニア: テストとレビューのスキルを磨く
AIが生成した「ほぼ正しいが微妙に違うコード」を嗅ぎ
分ける能力。README等で文脈を言語化する力が必須。



マネジャー: 評価指標を「コード量」から「品質・速度」へ
LOC (行数) ではなく、リードタイム、変更失敗率、脆弱性
温入率など、DORA指標に基づいた多角的な評価。



教育・政策: 基礎に加えて「AI監査」の教育を
文法だけでなく、仕様化、テスト設計、セキュリティ、
AIの限界を理解する判断力の育成が急務。